

2022 J3 ■順位表 ■第15節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

注：\*印は消化試合が数字分少ない

1	鹿児島	32p	+15	26	11	HO
2	いわき	31p	+18	30	12	
3	松本	31p	+11	24	13	H●
4	富山	29p	+6	23	17	AO
5	藤枝	26p	+11	27	16	A●
6	岐阜	24p	+4	25	21	---
7	今治	24p	+4	17	13	H●
8	長野	23p	+1	17	16	A△
9	愛媛	22p	-2	16	18	HO
10	福島	21p	+3	16	13	AO
11	沼津	20p	+1	17	16	A●
12	宮崎	18p	-1	16	17	AO
13	讃岐	17p	-5	13	18	A●
14	北九州	14p	-6	14	20	
15	相模原	14p	-7	15	22	HO
16	八戸	13p	-12	10	22	H△
17	鳥取	12p	-13	15	28	HO
18	YS横浜	5p	-28	5	33	A△

次回HomeGame

第18節 vs.カマタマーレ讃岐

7/23 (土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

今日もここから  
串かつ一杯

煮込み珍道中

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580



today's guest : いわきFC

2021 JFL 21勝 8分 3敗 勝ち点71:優勝

直近の対決と結果

初顔合わせ

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		いわきFC	
2022/07/03	J3 - 15節@長良川 岐阜 0-5 今治	2022/07/02	J3 - 15節@ Jスタ いわき 2-0 宮崎
2022/06/26	J3 - 14節@ユニスタ 宮崎 1-4 岐阜	2022/06/26	J3 - 14節@サンアル 松本 2-1 いわき
2022/06/18	J3 - 13節@とうスタ 福島 0-1 岐阜	2022/06/19	J3 - 13節@ Jスタ いわき 2-2 北九州

いわきFC:

2012年の創設時は普通の地方のクラブだったが、2016年に運営権がスポーツ用品輸入販売業者のドーム(の子会社)に譲渡され、本格的なサッカークラブ体制になる(監督は元・広島ハウストラが就任)。クラブは当初から選手のフィジカルを重視する方針を打ちだし、その異端ぶりは多くのメディアやスポーツライターからの注目を浴びる。2017年には福島県リーグ1部所属ながら天皇杯福島県予選でJ3の福島ユナイテッドに勝利し全国大会初出場、さらに2回戦ではJ1・札幌に延長戦の末5-2で勝利を挙げ、多くのサッカーファンを驚かせる。その後、天皇杯では2021年まで5年連続して全国大会に出場し続けた。地域リーグでも順調に昇格を続け、2019年の地域CLで優勝しJFLへ。昇格2年目の2021年にJFLで優勝し今季よりJ3参戦。(吉田铸造)

●横山監督になってから7試合負けなし、そして3連勝と徐々に調子を上げてきたFC岐阜。このまま上位を追求するためには、7/3 (日) 第15節・ホーム今治戦も勝たなければならぬ試合。そして試合序盤から攻勢に出た岐阜だったが、DFのミスによるカウンターを受けて先制点を許すと、一気に流れは今治に。CKで追加点を得て2点差で後半に入ると、得点を奪おうと攻勢に出る岐阜のボールを奪ってカウンターを仕掛け、後半だけで3得点。一方の岐阜は何とか1点でも返そうとするが、攻撃は実らず無得点。まさかの0-5という大量失点で岐阜は惨敗。連勝も無敗記録も途絶えた。

この痛すぎる敗戦により、FC岐阜の順位は5位から6位に後退。藤枝に順位で抜かれてしまい、上位4チームを追う第2グループの2番手の位置になってしまった。第14節に縮めることができた上位との勝点差も、首位・鹿児島とで8、2位・いわきとで7と再び開き、大量失点により得失点差も大きく減って+4に。岐阜に勝利し、7位に追い上げてきた今治とは得失点差でも並ばれ、総得点数の違いのみ。つまり1試合でも負けてしまうと、その状況が大きく悪化してしまうのが、現在の岐阜の状況だ。しかし一方で、その敗戦のショックを引きずっていいはずがない。残り19試合、敗戦を今後の糧にして、今節からの試合で、再び勝利を積み上げていくしか他に道はない。

さて、今節の対戦相手は、先述した2位のいわきFC。クラブ運営にスポーツ用品輸入業者が参入した2016年から破竹の勢いで地域リーグでの優勝・昇格を続け、2021年にはJFL優勝・J3昇格を達成。J3初参入となる今季も快進撃を続けて、台風の目となっている。徹底的に鍛え上げた、90分間衰えない走力と屈強なフィジカルで、敵陣でボールを奪ってからのショートカウンターや、セットプレーでの得点特徴のチームだ。特にその攻撃力は、対戦相手が疲労してくる後半に発揮されるため、最後までプレーに集中すること、そして素早いパス回しでプレスの網をかいくぐることが、岐阜の選手には常に求められる。そして、その勢いのあるチームを今季から率いるのは、昨年までは松本でコーチを務めた村主博正監督。2012年~2013年に岐阜でコーチ、ヘッドコーチを務めた指導者がS級を取得して、長良川に帰ってくる。だが、今の岐阜は僕らサポーターも含めて、当時よりも強いのだということを見せなければならぬ。

いわきで最も警戒すべき選手は、やはり#10有馬幸太郎だろう。現在7得点、直近5試合でも3得点と好調だ。右サイドは6得点の#19岩淵弘人、4得点の#2嵯峨理久と驚異的な攻撃力を誇っているが、ここを封鎖しなければ岐阜の勝利は見えてこない。先日梅雨明けを迎えた岐阜だが、小雨や曇空の天候が続いている。ピッチ状態も若干気になるところだが、蒸し暑い中でのナイターで、岐阜の選手たちの消耗の心配だ。だが、走り負けていては、いわきに勝てるはずが無い。そして、前節の屈辱的な敗戦をバネにして、岐阜の選手たちは必ずや奮起してくれるはずだ。僕らFC岐阜サポーターも、最後まで選手たちが走り抜き、戦い抜くことを信じて、その背中を押し続ける応援を、このホーム長良川で繰り広げよう。苦しみながらも首位・鹿児島を倒したように、今節は強敵・いわきを倒して、今節こそは“万歳四唱”で、選手と勝利の歓喜を分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第15節】岐阜 0-5 今治

●立ち上がりの流れるような攻撃を見ていたら、点を取るのも時間の問題だななんて思っていたのに、終わってみたらこの結果。若さと勢いで向かってくる今治にすっかりリズムを狂わされ、修正もできなかった。

この試合に関しては、横山さんの采配にも問題があったと思う。左サイドで1失点目のきっかけを作り、その後もパフォーマンスが上がらなかった橋本和と、ゲームに入れていなかった感のあるンドカチャールスを、前半で交代させることなく後半も使い続けたのは何故だったのだろうか？あと三國ステビアエブスを移籍2試合目で先発で起用したのは、少々荷が重かったのではないだろうか？宮崎戦、後半途中から起用されて安定したプレーぶりを見せていただけに、先発で使いたくなる気持ちも分からなくはないが。かなり彼のところを狙われていて、ボールを奪われてショートカウンターの特長となってしまう場面があった。

いつまでも負けなし状態が続くわけでもない、ここでしっかり切り替えて次節に臨むしかないわけだが、次の対戦相手が難敵いわき。横山さんの修正能力が問われる、上位に食らいついていくためにも正念場な一戦になることは間違いない。試合後、挨拶が終わってロッカールームへ引き揚げてくる今治の選手たちに、メインスタンドのお客さんから大きな拍手が聞こえていた岐阜の選手スタッフもおそらくいたことであろう。心境はいかばかりであっただろうか。(岐阜の誇り)

●3連勝で、今季ようやく『J3優勝・J2復帰』を口にしても大丈夫な(苦笑)順位に上がってきた岐阜。ここで今治を(油断せずに)確実に倒して4連勝を達成して、上位追撃の機運をさらに高めたい……と思ってただけどなあ……(溜息)。当初の予想では、試合時に大雨になる予報だったのが、雨は小降りになってピッチ上の水たまりは目立たない。午前中に豪雨があったのに、長良川も排水が良くなってるんだなあ……。そして、キックオフから攻勢に出る岐阜の選手たち。4バックにして攻撃に厚みを増そうとする意図が奏功して、前半10分までは、ほぼハーフコートで攻める岐阜。この良いリズムの時間帯に、先制点を奪えれば……との矢先、#4橋本和がビルドアップのボールをまさかのミスで今治の#33インディオに奪われ、そのままカウンターとなってドリブルでPAまで侵入され、そのままシュートを撃たれ、そのまま失点……なんですかねアレは(怒)。ロストも酷かったけれど、周りにいる岐阜の選手がズルズルと下がるだけで誰も止めに行かないのは、なんでなの？この一連の不用意なプレーが、後半まで大きく響くことになってしまった。先制点で勢いがついた(あるいは、開始10分を耐えて守り方が分かった?)今治は、直後にはCKで追加点。こども岐阜の守備が自滅していたようだった。その後も今治は、足を止めてパスを待つ岐阜の選手を狙ってプレスをかけ、奪ったら素早くボールを運んでカウンター、シュートを放つ。一方の岐阜の選手たちは、サイドに張りすぎて中央が空いてしまい、中央突破される場面が何度も見られた。後半になれば横山監督が修正してくれるかと期待した(そして事実、修正は行われた)けれど、予想していた選手交代までには何故か至らず。そして本格的に選手が入れ替わったのは4失点目を献上してからで、残念ながら後の祭り。横山監督は、大雨が降って悪いピッチでのパワー系(あるいはドリブルできない)サッカーを想定していたのかな？とも思ってしまう。チグハグになってしまったりリズムを戻すこともできず、意地で1点を返すこともできず、ホームで屈辱的な0-5での敗戦。J3だと、たしか2020年にホームで秋田に0-5で負けたことがあった。あの時も酷い失点ばかりだったけれど、相手は秋田だったからなあ……(溜息)。控えめに言ってもクソ試合、もう笑い飛ばすしか、気持ちの持って行きようのない結果。カウンターを得意とする強敵・いわきとの対戦を前に、こんなにカウンターに脆弱なプレーを見せられると不安ばかりが募ってしまう。だ

けどチーム全体で猛省し、奮起してくれるはずだ。控えに回っている選手たちも、自分たちが活躍するチャンスだと目の色を変えてくれるだろう。それを信じたい。負けることはあるとしても、こんな無様な負け方は、ホームでは金輪際してほしくない。(ささたく)

●う～ん、解せぬ。キックオフから前節の勢いのまま果敢に攻めて、オフサイドにはなったけどネットを揺らした開始10分までの展開から、一体全体、どうしてこうなった？CKも前半だけで2桁だったよね？得点の匂いがするようなCKは1本もなかったけど。これほどまでに点差がつくような展開じゃなかったと思うんだけど。シュート数も公式では12本-14本だとか。ゴールは認められなかったけどネットは揺らした2本を含め、枠内を捉えたシュートは何本もあった。つくづく、解せない。でも、サッカーの神様に「なんで？」と聞いたら「昨季の貸しを返してもらっただけだよ～」と軽く返されてしまいそうだな。2本-20本、だったもんね(苦笑)。それにつけても、前日上位が揃って勝って、次節の相手・いわきにプレッシャーを掛ける(実際、いわきにソレが掛かるかは知らんけど)意味でも追いかける立場としては勝たなきゃなんない、しかも、負けたら勝ち点で並ばれる相手との試合で、勝ち点どころか、得失点差まで追いつかれるとは、いやはや、どんだけ気分がいいんだか。たしか、10点近く離れてなかったっけ？ウチと今治の得失点差。なんというかね、監督が横山さんになってから『賽の河原で懸命に積み上げてきた、勝ち点もしくは得失点差という石の塔を鬼どもにアッサリ突き崩されてしまった』みたいな感じがするよ。

さらに「解せぬ。」といえ、選手の起用。なんで、前半と同じメンツで後半を始めたんだろ？当然、何らかの手を、2点ビハインドなんだから、打ってくると思っただが……。D A Z Nでの見え方とベンチからの見え方にはそれほどまでに違いがあった、ということなんだろうか？もちろん、2回もネットを揺らしたんだし、CKも取れてるんだから悪くはない、という見方があっても不思議では……不思議では……、ないのかもしれないが。クボタンー辺倒ではなく、トーマを早めに入れて、両サイドから揺さぶって欲しかったんだけどなあ。そしたら、庄司とかウガのミドルもさらに効果が出たんじゃないの？まあ、やむにやまれぬ事情があったんじゃないかな？……いや、それはソレでマズいのか。

とはいえ、出てしまった結果は受け入れるしか術がない。目標が変わらないなら、届くか届かないかは神のみぞ知る。とりあえず、この試合の結果は、バス停まで行ったのに、些細なことが気になって引き返し、結局、D A Z N観戦でお茶を濁そうとしたボクのせい、ということにしておきます。選手、スタッフの皆さんに置かれましては、とっとと切り替えて、次節・いわき戦に備えてくださいませ。正直、今治より数段厳しい相手だと思いますよ？現在、昇格圏内にいるんですからね。いずれにせよ、次節は前半戦の長良川締めくくり。今度はスタンドからクラブ送ります！(ぐん、)

●前半10分までの岐阜ターンで1点でも奪えていれば試合の結果も変わったかもしれない。でも、最初の今治のターンで岐阜の左サイドを「底が抜けたように」破られて決められてからは、視ちゃおれん……と45分が過ぎるのを祈って待つ展開。さあ後半、『修正力』でここまで無敗で来た横山監督は左の橋本を下げてからどうする……え、そのまま？どうしたんだ、湿度でバグったか？後半もさらに3失点。岐阜はベテランは多いけれど「キャプテンシー」を持っているのは柏木だけ、という点も明らかになった。ピッチ上の混乱をその場で解決出来るのは彼しかいないんだね。

横山監督は、いったい何を気にして『修正力』を封印したのだろうと思ったけど、同じ疑問を持った友人がSNSに「a■のせいかな」と書いていた。普段の横山監督は、カラダに埋め込まれたチップを介して電脳通信で外部からアドバイスを受けていたけど、この日は■uの通信障害で出来なかったということか。なるほど！(「なるほど」じゃない！)(吉田鑄造)